

令和4(2022)年度事業計画

公益財団法人 **神奈川芸術文化財団**

第4期指定管理（令和3（2021）年度～令和7（2025）年度） における財団の運営方針

【財団の「理念」と3つの「視点」】

1. 財団の理念

- 私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。
- 私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、
幸福な社会の実現に貢献します。

2. 3つの「視点」（財団の理念に次の3つの視点を持って向きあっています）。

- 視点1「革新性」：革新的な思考や活動を通じて、新しい価値とさまざまなあり方を認め合う、
豊かで柔軟な社会をめざします。
- 視点2「国際性」：国際的な創造発信を行ってきた「神奈川」という地域の特性を発揮します。
- 視点3「多様性」：基本的人権を尊重し、平和を希求する社会の実現に寄与します。

【財団の4つのミッション】（上記、「理念」のもとに、定めた4つのミッション）

■ミッション「創造に挑む」

- ・芸術文化の価値の追求
- ・多様な価値観や美意識、表現の自由に基づく作品の創造
- ・古典作品の再発見と伝統の継承
- ・劇場法が示す公共劇場のモデルを体現

■ミッション「感動を分かち合う」

- ・自宅でも職場・学校でもない、人びとに開かれた「第3の場所」としての文化施設の実現
- ・豊かな芸術体験の提供、多様な芸術文化の紹介
- ・広域ネットワークの構築
- ・神奈川県内の地域文化の活性化と偏在の解消
- ・文化施設の維持・運営を通し、あらゆる人々の鑑賞や創造活動を支援

■ミッション「つねに考える」

- ・新たな行動に結びつく公正で適正な評価と組織整備
- ・社会と芸術、時代の多面的な検証
- ・芸術文化の公共性や可能性の考察
- ・文化施設の公共性や可能性の考察

■ミッション「未来につなぐ」

- ・芸術文化の担い手の育成
- ・次世代への継承
- ・創造性やコミュニケーション力を養う教育の拠点

【第4期指定管理における重点テーマと主な取組】

1. 「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」
各館それぞれの個性・特性をより強く打ち出した企画立案
事業部長（音楽事業部長・演劇事業部長）の設置
総合調整会議を設置（施設運営における水準の平準化と更なる向上）
2. 「あらゆる人々へ開かれた場」
「社会連携ポータル」部門（※）を立ち上げる。
利用者サービスのユニバーサルデザイン化の推進や、障がい者の鑑賞サポートの充実
3. 「地域との連携」の強化～「繋がりの実現」
「社会連携ポータル」部門（※）を立ち上げる。
県内巡回オペラの実施や、バックステージツアーの充実
4. 「今後予測される厳しい財政環境への対応」
専門性の高い職員を3館に共通する部門に配するなどの効率的な人員配置
長期貸館の誘致などによる、利用料収入の確保

※社会連携ポータルとは（令和3年度より立ち上げ）

これまで、各館でそれぞれに取り組んできた

- ①専門人材育成プログラム
- ②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）
- ③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ
- ④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）

について、これまで培った知識や経験といった機能を「社会連携ポータル」部門に集約することで、その機能をより強化し、3館にとっても、また地域の文化施設や他の団体からも、社会と芸術をつなげる窓口＝ポータルとなるよう機能させていく。

また、社会連携ポータル部門では、さまざまな障がいを持つ方々、県内の在住外国人、貧困や社会的養育のもとにある子ども、高齢者（シニア）を重点的に取り組むべき対象とする。

【第4期指定管理に向けた3館の役割と課題】

神奈川県民ホール

○担うべき役割

- ・ 県内最大規模のキャパシティと多目的ホールの特性や良好な立地条件を生かしながら、主催・共催事業や貸館事業を通じて、県民の方々からの多様なニーズに応え、多彩で良質な芸術鑑賞の機会を提供すること。
- ・ 大ホール、小ホール、ギャラリー、会議室などを最適な環境で提供し、県民の方々の文化芸術活動の活性化に貢献すること。
- ・ 開館後45年を経過した老朽化の進行に適切に対応することで、今後も安全で安心感のある、良好な施設環境を維持し、県民の方々に提供していくこと。

○取組の方向性

- ・ 主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保し、高い利用率を維持する。
- ・ 近隣地域の劇場整備の進捗による利用需要の変化に柔軟に対応していく。
- ・ ロビーや正面広場等を活用した賑わいを創り出す。

KAAT 神奈川芸術劇場

○担うべき役割

- ・ 県民の方々の多様な鑑賞ニーズに応え、かつ高度な舞台創造機能やリソース（人材、ノウハウなど）を生かしたラインナップの実現と、将来の舞台芸術を担う専門人材を育成していくこと。
- ・ 中・長期間公演による大きな収入を財源とした大規模な創作や上演を実現していくこと。
- ・ いわゆる劇場法に則った創造型劇場としての運営や、地域の拠点劇場のモデルを体現する先進事例への取組を続けていくこと。

○取組の方向性

- ・ 収入の維持・向上のために、安定的なロングラン貸館の利用を確保していく。
- ・ 舞台技術に関する創造活動及び安全管理のノウハウを、3館全体への展開し共有する。
- ・ NHK 横浜放送局とも連携し、アトリウムに賑わいを創り出すとともに、劇場施設自体の魅力を発信する取組を開始する。
- ・ 実演家・クリエイター・スタッフ等の創造性を養い、その成果を事業実施や企画立案に反映させる業務環境を作る。

神奈川県立音楽堂

○担うべき役割

- ・ 音楽堂の音楽ホールとしての歴史性を継承する、独自性の高い演奏会を実施すること。
- ・ 優れた音響特性や建物の魅力を生かすジャンルの選定（クラシック音楽の中でも室内楽や室内オペラなど。またモダニズム建築を生かせるパフォーマンスや現代的な演目など）。
- ・ 県民の方々が自ら行う文化活動のために、利用したくなる魅力を持つ「音楽ホール」であり続けること。

○取組の方向性

- ・音楽堂としての個性を大切にした音楽事業を展開する。
- ・文化財的価値のある建築であり、同時に現役の音楽ホールとして稼働中の施設を保全していくノウハウを確立する。
- ・これまでと同様の高い利用率を維持しながら、施設の老朽化に適切に対応していく。
- ・主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保する。



神奈川県民ホール



KAAT 神奈川芸術劇場



神奈川県立音楽堂

※次頁以降の凡例（**公1**、**収1**、**収2**、および**法人**）は、公益認定および会計上の分類を示す。

◆公益目的事業

公1 芸術文化事業およびそのための施設運営に関する事業、芸術文化の情報収集提供、調査研究及び人材育成

◆収益事業

収1 駐車場の運営に関する事業

収2 大会、集会、会議等芸術文化以外の施設運営に関する事業

◆法人会計

法人 法人の運営に関すること

令和4(2022)年度における財団の運営方針

神奈川芸術文化財団は、4つのミッションを柱とした芸術文化事業を展開し、多くの県民に上質で多彩なプログラムを提供することによって、広く県域において創造性や活力が育まれることを目指していく。また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分な対策を施し、県民が安心して芸術文化を享受できる環境を整え、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代においても芸術文化の振興と、創造・発信の役割を果たしていく。

I. 芸術文化事業 公1

1. 神奈川県民ホール

神奈川県民ホールは、昭和50(1975)年の開館当初から有数の大型文化施設・多目的ホールとして神奈川県の芸術文化振興を担ってきた。第4期指定管理期間でもその実績と使命を継承し、さらに財団の理念とミッションの方向性と軌を一にし、上質でバラエティ豊かな事業を展開していく。

一柳慧芸術総監督と沼野雄司芸術参与のディレクションのもと、令和7(2025)年1月に迎える開館50周年の記念事業を目指して、新しい総合芸術表現を追求・創作する舞台作品に取り組みほか、大ホール2,400席の大空間と舞台機構を生かしたオペラ・バレエ・オーケストラ演奏会、発信力の高い企画による小ホールの活性化、現代美術や幅広い参加型企画によるギャラリーの活用、県域でのアウトリーチ型オペラ公演の実施などを通じて、県民ホールの価値を高める事業を行う。事業実施においては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に対応するため、観客・出演者等の安全・安心を確保するとともに、コロナ後の芸術文化のあり方を芸術総監督及び芸術参与とともに考え、併せてオルガン・アドバイザーなどアーティストによる企画への参画(アソシエイト)も進めていく。

■ ミッション「創造に挑む」 [3事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
10月8日(土) 9日(日)	大ホール	開館50周年記念シリーズ Vol. 1 「音楽+ダンス」をテーマにした舞台作品	開館50周年(令和7(2025)年度)に向けて、一柳芸術総監督、沼野芸術参与のディレクションのもと、新しい総合芸術表現を追求・創作するシリーズの第1弾。令和4(2022)年度は「音楽+ダンス」をテーマにした舞台作品の創作を予定。

9月10日(土) 令和5年 1月14日(土)	小ホール	「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」	小ホール事業の共通テーマ「C× 」(シー・バイ)を体現するメイン企画。「C」はComposer、Classic、Contemporaryを意味する。「C×C(シー・バイ・シー)」では、過去の著名な作曲家と現代の作曲家を引き合わせ、歴史的遺産を顧みつつ、未来へとつながる創造を模索する室内楽シリーズを開催する。 テーマ作曲家 9月: ケージ(生誕110年、没後30年) × 山根明季子 1月: リゲティ(生誕100年) × 酒井健治
12月～ 令和5年 1月	ギャラリー	企画展「ドリーム/ランド」	県民ホールギャラリーの独特な空間を活かし、同時代の美術を紹介する企画展。経験豊かな作家と気鋭の若手作家7名によるグループ展を開催。

■ ミッション「感動を分かち合う」[6事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
C×オルガン オルガン・コンサート・シリーズ			
4月22日(金) 5月27日(金) 6月24日(金) 9月30日(金) 令和5年 1月27日(金) 2月24日(金)	小ホール	プロムナード・コンサート	小ホール事業の共通テーマ「C× 」に沿って、オルガン・アドバイザーの中田恵子のもと企画される「C×オルガン」シリーズ。 オルガン音楽の普及を図る「プロムナード・コンサート」、古典から現代までオルガン音楽の魅力を追求する「リサイタル」、年末の風物詩的演奏会「クリスマス」の3ジャンルで構成する。
6月12日(日)		オルガン・リサイタル	
12月24日(土)		クリスマス・コンサート	

8月20日(土)	複数施設	オープンシアター2022	大ホールでの公演を中心に、音楽・美術ほか様々な企画をホール内各所で同時開催。県民ホール全体での取組とするほか、関係する団体等と連携し、障がい者・多言語対応にも取組み、幅広く地域の人々にホールや芸術に親しんでもらうことを目指す。
9月3日(土)	大ホール	主催バレエ公演	プロフェッショナルなバレエ団体による公演を誘致し、県民にバレエの名作を鑑賞する機会を提供する。
11月26日(土) 27日(日)	小ホール	巡回オペラ 「みんなでたのしむオペラ『ヘンゼルとグレーテル』」	平成30(2018)年の大ホールでの初演後、県域での実施のために改訂したオペラ「ヘンゼルとグレーテル」(日本語・ピアノ版上演/約1時間)を、地域の文化施設等と連携して実施。(小ホール及び県域で上演予定)
12月29日(木)	大ホール	ファンタスティック・ガラコンサート2022	オペラ、バレエ、オーケストラの名曲、名シーンで構成。祝祭感溢れるステージを展開する年末恒例のガラコンサート。
令和5年 3月25日(土)	小ホール	C×バロック 「大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol. 2」	バロック音楽の第一人者である大塚直哉(チェンバロ)によるコンサート・シリーズ。バロック音楽の魅力を様々な角度から紹介する。

【共催事業】 [1事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
年4回	大ホール	神奈川フィルハーモニー管弦楽団演奏会	横浜みなとみらいホールの改修休館に伴い、定期演奏会などを共催で実施。
通年	大ホール 他	共催公演・展覧会 (松山バレエ団、アートダンスカナガワ、日本バレエ協会ほか)	優れたオペラ公演、クラシック音楽、舞踊、現代美術展等を共催公演として招聘し県民に鑑賞機会を提供するほか、県民の自主的な芸術活動を支援する発表の場を提供する。

■ ミッション「つねに考える」[2事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
① 7月16日(土) ② 8月27日(土)	小ホール	舞台芸術講座 ①開館 50周年記念シリーズ Vol. 1 関連講座 ②青島広志の名曲レクチャーコンサート ＜社会連携ポータル事業＞	舞台芸術への扉を開く講座シリーズ。社会連携ポータル部門と協働し、広い観点から音楽芸術等への理解と共感を深める企画を実施。 ①50周年記念シリーズ Vol. 1 の関連講座 ②名曲レクチャーコンサート 講師：青島広志
9月10日(土) 令和5年 1月14日(土)	小ホール	「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」	(再掲)

■ ミッション「未来につなぐ」[3事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
6月～10月	ギャラリー	第57回 神奈川県美術展	昭和40(1965)年の創設以来、新人作家の育成と美術文化の向上に努めてきた、国内有数の規模を誇る美術公募展を、県及び財団が参画する実行委員会が主催して開催。共催。
7月31日(日)	大ホール	横浜バレエフェスティバル 2022	世界で活躍する日本人ダンサーを招聘し、クラシックからコンテンポラリーまで幅広いプログラムを上演。共催。
調整中	未定	県民ホール人材育成事業 ＜社会連携ポータル事業＞	社会連携ポータル部門と協働し、県内の文化施設職員等を対象にした劇場運営マネジメント講座、インターンシップの受け入れ等を実施する。

2. 神奈川県立音楽堂

- ・開館 65 周年を機に開始した音楽堂のプレゼンスを再び高める事業を継続して実施。上質性、先進性、国際性とオリジナリティにあふれたクラシック音楽を主としたレギュラーラインナップを主共催連動して展開し、若い世代や地域にむけ、新しいジャンルの音楽や他ジャンルの芸術との協働も含めた発信を行い、一流室内楽ホールとしてのブランドイメージを構築する。
- ・開館 65 周年を機に立ち上げたリニューアル音楽堂のフラグシップとなる「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」では、令和元（2019）年コロナ禍で公演直前に中止となったファビオ・ビオンディ指揮エウローパ・ガランテによるヘンデル「シッラ」全 3 幕の完全舞台版世界初演を実施。演出彌勒忠史ほか日本側クリエイティブスタッフと再集結した世界一流のキャスト陣による国際協働を、令和元（2019）年版から保存されたプラン、セット、衣裳をもとに再構築する。NHKでの放送収録も予定されている。仮に緊急事態宣言等で公演が行えない場合は、無観客収録配信も検討する。いずれの場合も横浜能楽堂等と連携した事前ワークショップ等を計画し、また令和 3（2021）年度から実施している社会連携ポータル部門との連携による「室内オペラ制作・広報インターンシップ」を実施する。
- ・世界的名演奏家の公演を招致するもう一つのフラグシップ「音楽堂ヘリテージ・コンサート」では令和元（2019）年コロナ禍で映像配信のみとなった、クロノス・クアルテットと神奈川の合唱団やえ山組共演によるテリー・ライリー「サン・リングズ」日本初演の舞台を実施。チェリスト、ステイーヴン・イッサーリスのチェロ・リサイタル、ベルリン・フィルのフルーティスト、エマニュエル・パユほか木管楽器のトップスターが集まったドリーム・チーム「レ・ヴァン・フランセ」の公演を初実施。また発信力のある共催事業を積極的に誘致し充実を図る。
- ・「ホールを開く／次世代を呼び込む」の 2 つのミッションに対応する事業「子どもと大人の音楽堂」では、多言語・多文化家庭の子どもや、障がいをもつ子どもを含めた多様性のある参加者を想定したワークショップやコンサート等を実施する〈子ども編〉、音楽堂になじみのない層も含め若い感性で音楽堂全体を楽しむ〈大人編〉を開催。
- ・紅葉ヶ丘公立文化施設 5 館連携会議（紅葉ヶ丘まいらん）、地元街づくり会・ボランティア等と連携した関連企画・広報の実施で、文化の杜・紅葉ヶ丘の地域的ブランド形成を加速する。令和 4（2022）年度は「まいらん」として初めて合同でのパフォーマンスイベントを神奈川県文化課とも協働して実施予定。音楽堂事業面からは「子どもと大人の音楽堂」〈大人編〉のフリンジとして駐車場広場を活用した「まいらん協働イベント」とする。
- ・従来の表現・思考のスタイルにとらわれない新しい表現を紹介する「新しい視点」シリーズの本格稼働にむけ、令和 3（2021）年度に募集採択した 2 組の提案企画を実現するコンサートを実施するほか、ニューヨークを拠点に活躍するマリンバ奏者小森邦彦の構成で、一柳慧芸術総監督とアレハンドロ・ヴィニャオ（アルゼンチン）という、世界的にもマリンバに焦点を当てた作品数でトップクラスを誇る巨匠二人の作品展となるコンサートを開催する。ヴィニャオはロンドンから招聘。ヴィニャオ、一柳それぞれ、作曲家によるトークコーナーに出演する。
- ・アウトリーチは社会連携ポータル部門と協働し、県内のハブとして各地でのモデル授業をもとに先生たちの指導法のヒントになるコンテンツ制作に取り組む。

■ミッション「創造に挑む」[2事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
音楽堂室内オペラ・プロジェクト			
10月29日(土) ～30日(日)	音楽堂	ファビオ・ビオンディ 指揮 エウローパ・ガ ランテ ヘンデル「シッラ」 全3幕 完全舞台版 世界初演 (イタリア語上演日 本語字幕付き)	令和元(2019)年度に予定、公演中止 となった開館65周年記念プロジェク トのスターティングプログラム。令 和元年度の出演者、演出チームが再 集結。舞台装置、衣装、照明、演出プ ラン等を再利用。地域連携プログラ ム(関連ワークショップ、インターン シップ等)開催。出演:ヴィヴィカ・ ジュノー(メゾプラノ) 演出:彌勒忠 史 美術:tamako☆ 照明:稲葉直人 (ASG) ほか
「新しい視点」シリーズ			
①7月2日(土) ②11月～ 令和5年 2月(予定)	音楽堂	<公募編:紅葉坂プロ ジェクト>	①令和3(2021)年度に公募、一柳芸 術総監督を委員長とする審査会で採 択した団体2組以上によるコンサ ート(1回) ②令和5(2023)年度に本公演を行う 団体2組以上の公募・審査・採択・ワ ークインプログレス(1回)
7月10日(日)		<プロデュース編> 「マリンバ・ワールド /小森邦彦&フレン ズ」(仮称)	令和4(2022)年度からスタート。一 柳芸術総監督の推薦により、ニュー ヨークを拠点に活躍するマリンバ奏 者小森邦彦と仲間たちにより、マリ ンバを中心にした室内楽曲で構成す るコンサート。マリンバのために多 くの曲を書いている世界的作曲家、 アルゼンチン出身のアレハンドロ・ ヴィニャオ(在ロンドン)を招聘。一 柳芸術総監督とともに、作品解説ト ークも含めて開催。

■ミッション「感動を分かち合う」[3事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
音楽堂ヘリテージ・コンサート ※下記共催と合わせてセット券を発売するなど、シリーズ展開 ※コロナ禍等により招聘が難しい場合は日本人の優れた演奏家による代替企画等も検討			
9月17日(土)	音楽堂	スティーヴン・イッサーリス チェロ・リサイタル	令和2(2020)年度に予定、来日中止となったイッサーリスによる、ソロリサイタル。今回の音楽堂のための特別プログラムを構成。前日になくホールで「曲目解題コンサート」を行い、地域連携を行う。
10月1日(土)		クロノス・クアルテット テリー・ライリー『サン・リングズ』日本初演	令和2(2020)年度に予定、来日中止となったプロジェクト。結成50周年となるクロノス・クアルテットが合唱団やえ山組と共演による日本初演を果たす。
令和5年 3月11日(土)	音楽堂	レ・ヴァン・フランセ	クラリネットのポール・メイエが中心となって結成された管楽アンサンブル。エマニュエル・パユ(フルート)、フランソワ・ルルー(オーボエ)、ポール・メイエ(クラリネット)、ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)、ジルベール・オダン(バスーン)、エリック・ル・サージュ(ピアノ)ら、メンバーの全員が超一流のソリストでもある、いわば管楽器のドリーム・チームによる室内楽コンサート。

【共催】[3事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
音楽堂ヘリテージ・コンサート ※上記、主催と合わせてシリーズの一環としてセット券発売、広報などを実施			
11月22日(火)	音楽堂	ヴィクトリア・ムローヴァ ヴァイオリン・リサイタル	世界的ヴァイオリニストによるリサイタル。ピアノ&フォルテピアノ：アラスデア・ビートソン [主催：パシフィック・コンサート・マネジメント]

アフタヌーン・コンサート			
4月14日(木)	音楽堂	上岡敏之ピアノリサイタル	神奈川芸術協会による平日のアフタヌーンコンサートシリーズ [主催：神奈川芸術協会]
5月12日(木)		藤原真理チェロ・リサイタル	
6月22日(水)		ウェールズ弦楽四重奏団	
7月15日(金)		辻彩奈ヴァイオリン・リサイタル	
通年	音楽堂	その他共催	共催公演として招聘し、県民に鑑賞機会を提供するもののほか、音楽堂おかさんコーラス等、例年行われる県民による公演の共催等。

■ミッション「つねに考える」[1事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
適宜各公演前通年 3-4回 (調整中)	音楽堂	街なかトークカフェ @音楽堂	音楽堂ヘリテージ・コンサートや室内オペラ・プロジェクトに先立つ関連企画として、プログラムの背景や意義、聴きどころなどを講師中心に共有する。 野毛や黄金町、紅葉ヶ丘地域等音楽堂周辺に協力を仰ぎ、参加者に街の魅力と文化の奥行きを同時に味わってもらおう。(コロナ禍に鑑み、当面は音楽堂ホワイエでの開催、オンライン開催等を含め調整する)。

■ミッション「未来につなぐ」[4事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
8月5日(金) ～6日(土)	音楽堂	子どもと大人の音楽堂<子ども編>	前年度に引き続き、音楽堂全館を使って、コンサートやホワイエイベント、建築見学、ワークショップなどマルチな体験をする親子イベント。

令和5年 3月4日(土)		子どもと大人の音楽堂<大人編> 「音楽堂でピクニック 第二弾」(仮称)	前年度に引き続き、小金沢健人アートディレクション、NOIZ 中村コーディネーションにより、音楽堂全館で音楽、トーク、ピクニック、建築見学などマルチな体験をするマルチカルチャーイベント。「紅葉ヶ丘まいらん」イベントとして、神奈川県文化課と連携し、駐車場広場を利用した5館連携プログラムも同日開催。
12月11日(日)	音楽堂	第56回音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲演奏会	伝統の神奈川県民参加合唱団と神奈川フィルによる公演。指揮者に大塚直哉を迎え、リニューアルしてスタート。
通年	調整中	音楽堂アウトリーチ <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータル部門と協働して、主に小学校の先生を対象に、県内各地でアーティストを派遣したモデル授業を伴った授業研究プログラムを実施する。 特別支援学校等の児童生徒等、ホールに足を運ぶことが困難な子どもたちにも音楽に接する機会を提供する。
①5月21日(土) ②7月9日(土) ③令和5年 1月7日(土)	音楽堂	子どものための公開リハーサル等	神奈川フィルハーモニー管弦楽団の音楽堂定期公演等を共催によって誘致し、その関連企画として公開リハーサルを音楽堂主催で実施。子ども青少年への音楽体験の提供を行う。 (神奈川フィルと調整中)

3. KAAT 神奈川芸術劇場

令和3（2021）年度より新たに芸術監督に就任した長塚圭史のもと、年間を通じたプログラムや芸術監督演出作品・企画作品を通じて、高い芸術性を担保し、リソース（専門人材、劇場設備・機構、人的ネットワーク、ファンドレイズ等）を積極的に育成・展開・活用する企画を立て、安定した事業運営を目指す。

前年度に引き続き、劇場・財団のミッションを踏まえた多様なプログラムを提供する枠組みとして、4月～8月を「プレシーズン」、9月～3月を「メインシーズン」として2つに分け、活動にリズム感を持たせ、より県民に親しまれる劇場を目指す。

4月～8月の「プレシーズン」は、ひらかれた劇場として県民の方々をつながることを目指し、舞台に触れることの少ない方々に、劇場の存在を知っていただき、また観客となる体験を提供することを主眼として企画していく。

9月～3月の「メインシーズン」には、毎年度テーマを掲げ、時代や劇場の動性を表現しながら、芸術監督演出作品をはじめ、そのテーマから想起される多彩な作品をプログラムする。

令和4（2022）年度は、『忘』をテーマに、多様な価値観、美意識、そして舞台芸術の喜びを県民に提供していく。

<私たちは、過ぎ去る時間の中で大切なことを忘れていく。生きていくために、目をそらし忘れようとすることもある。忘れることは、ときには力に変わる。しかし、私たちには、けして忘れてはいけないことがある。>

プレシーズン-----

5-6月	アトリウム	KAAT Exhibition 2022「鬼頭健吾展 Lines」
5-6月	アトリウム	KAAT Exhibition 2022「鬼頭健吾展 Lines」関連企画
7月	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2022 「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」北村明子振付・演出
8月	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2022 「さいごのひとつ前」松井周作・演出

メインシーズン-----

9月	ホール	「夜の女たち」長塚圭史上演台本・演出
9月	大スタジオ	「夜の女たち」関連企画
10月	大スタジオ	「横濱 JAZZ PROMENADE 2022」
10月	中スタジオ	「女流義太夫 竹本駒之助公演」
10月	大スタジオ	「スカパン」串田和美潤色・美術・演出
11月	大スタジオ	「温暖化の秋（仮）」山内ケンジ作・演出
11-12月	中スタジオ	「逆転（仮）」兼島拓也作、田中麻衣子演出
12月	複数施設	YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング 2022
1月	ホール	「星の王子さま-サン・テグジュペリからの手紙」 森山開次演出・振付
2-3月	ホール	「蜘蛛巣城」斎藤雅文脚本、赤堀雅秋演出
3月	中スタジオ	「掃除機」岡田利規作、本谷有希子演出

■ミッション「創造に挑む」[6事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
5月1日(日) ～6月5日(日)	アトリ ウム	KAAT Exhibition 2022 「鬼頭健吾展 Lines」	(プレシーズン) これまで中スタジオの劇場空間で開催してきた、KAAT ならではの現代美術展 KAAT Exhibition を、本年度は建物の外からも見える吹きぬけのアトリウム空間を使い開催する。フラフープやシャンプーボトルなど、工業製品の現代的なカラフルさと、生命体や宇宙を感じさせるような広がり融合させた作品で、国内外から高い評価を受ける現代美術家・鬼頭健吾による作品で空間を構成し、街ゆく人々を呼び込むように展開することで、街にひらいていく「プレシーズン」にふさわしい企画を目指す。
9月2日(金) ～19日(月祝)	ホール	「夜の女たち」 長塚圭史上演台本・演出	(メインシーズン) 『忘』をテーマにプログラムする本年度メインシーズンの第一作。戦後間もない大阪を舞台に、戦争で夫を亡くし敗戦後の生活苦から随っていく女性たちを描いた溝口健二監督による映画「夜の女たち」を基に、ミュージカル作品を創作する。忘れてはいけない時代、価値観の逆転に飲み込まれながらも、しかし生き抜こうとする凄まじいまでの生命力が迸る女性たちのミュージカルを、芸術監督・長塚圭史の演出、数多くの舞台・映画の音楽を手掛ける荻野清子の音楽により創り上げる。
11月12日(土) ～27日(日)	大スタ ジオ	「温暖化の秋 (仮)」 山内ケンジ作・演出	(メインシーズン) 第59回岸田國士戯曲賞を受賞した劇団「城山羊の会」の劇作家・演出家、山内ケンジによる新作戯曲書き下ろし公演。 人間関係を鋭くそして軽妙に描き切る山内ケンジの持ち味を活かして、大人の会話劇を創作し、広く県民に演劇の魅力を届ける。 毎年取り組む新作戯曲シリーズとして取り組む。

11～12月	中スタジオ	「逆転（仮）」 兼島拓也作 田中麻衣子演出	(メインシーズン) アメリカ支配下の沖縄普天間で起きた米兵殺傷事件とその裁判について、作家・伊佐千尋が書いたノンフィクションを題材に舞台作品を創作する。沖縄に出自を持つ新進気鋭の演出家田中麻衣子と沖縄で活躍する若手劇作家兼島拓也により、事件の背景や裁判の過程から人間の生と時代を切りとり、現在の日本に繋がるドラマを紡ぎだす。YPAM と関連する日程で上演し、YPAM が演劇の持つ力、批評性の表出に貢献することも目指す。
令和5年 2月～3月	ホール	「蜘蛛巣城」 斎藤雅文脚本 赤堀雅秋演出	(メインシーズン) 黒澤明監督による映画「蜘蛛巣城」を基に平成13(2001)年に新橋演舞場で初演された舞台版を、劇作家、演出家、俳優、映画監督として幅広く活躍する赤堀雅秋による新演出で上演する。シェイクスピアの戯曲「マクベス」を日本の戦国時代に置き換えたスケールの大きな作品を、普遍的な心性のドラマとして描く。
令和5年 3月4日(土) ～21日(火)	中スタジオ	「掃除機」 岡田利規作 本谷有希子演出	(メインシーズン) 岡田利規がドイツ・カンマーシュピーレ劇場に書き下ろし上演、高い評価を受けた作品の日本初演となる。家庭にある「掃除機」の視線を取り込み、家庭の「引きこもり」を描いた本作を、小説家として文壇でも活躍する本谷有希子の演出で上演する。これまで自身の演出で上演されてきた岡田利規の戯曲を、別の演出家に委ね、戯曲また演劇の多義性の表出を目論む。

■ミッション「感動を分かち合う」 [7事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
5月～6月	アトリウム	KAAT Exhibition 2022 「鬼頭健吾展 Lines」 関連企画	(プレシーズン) KAAT Exhibition 2022の会場ともなっているアトリウムを使い、ダンスや音楽など多様なパフォーマンスをおこなって、劇場が街の人々に見えるところに飛び出して、その楽しみをアピールする機会をつくっていく。

7月20日(水) ～24日(日)	大スタ ジオ	KAAT キッズ・プログラ ム 2022 「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」 北村明子振付・演出 大小島真木美術	(プレシーズン) 令和3(2021)年度に創作した作品を再演 し、県内外の巡演をおこなう。ダンサー・振 付家として活躍する北村明子が、自然や生物 を作品のモチーフとする現代美術作家・大小 島真木とともに、「夏休み」をテーマに創作 したダンス作品。鑑賞中に使用するお面つ くりワークショップや、一緒に踊るダンスのワ ークショップもおこない、言葉ではなく身体 を通じて、生死や自然について新たな発見・ 体験の機会を提供する。
8月11日(木) ～21日(日)	大スタ ジオ	KAAT キッズ・プログラ ム 2022 「さいごの1つ前」 松井周作・演出	(プレシーズン) 継続的に取り組んでいるキッズ・プログラ ムのオリジナル作品の新作公演。演劇界の次代 を担う作家・演出家の一人として注目を集め る劇作家・演出家の一人として注目を集め る劇作家・演出家・俳優の松井周が、日本を 代表する女優・白石加代子を主演に迎えて描 く、天国に行くために「生きていたころの一 番楽しかった記憶」を探す物語。 (令和2(2020)年度の中止事業の延期分)
10月	大スタ ジオ	「横濱 JAZZ PROMENADE 2022」	(メインシーズン) 横浜市内で大小様々なジャズイベントを開催 し、港町らしい進取の精神のもと、横浜の歴 史、文化、ロケーションなどの利点を総合的に 生かしたジャズ・フェスティバルと共同して 実施する、横浜を盛り上げるコンサートイベ ント。
10月	大スタ ジオ	「スカパン」 串田和美潤色・美術・ 演出	(メインシーズン) モリエールの喜劇「スカパンの悪巧み」を原作 に、まつもと市民芸術館芸術監督の串田和美 が独自の解釈と脚色で作りに上げた作品。繰 り返し上演され深化をとげてきた同作品の決 定版を KAAT で上演する。公共劇場が創作 した作品を互いに共有し、良質な舞台芸術を 県民に提供する取り組みである。
通年	アトリ ウム 他	フレンドシッププロ グラム ＜社会連携ポータル事業＞	年間を通じて、街の一部である劇場、街に飛 び出す劇場、またあらゆる人々に開かれた劇 場を目指し、演劇・音楽・ダンス・現代美術・ トークイベントなど多様な催しを、アトリウム

			を活用し開催する。また、劇場を身近に感じていただく、劇場の魅力を知っていただくために、日常的にバックステージツアーを開催する。
通年	複数施設	提携事業	KAAT の劇場イメージを向上させる上質な演目や、集客力で地域の賑わいを創り出す演目を、提携公演として誘致し、主催公演とあわせて KAAT 全体の公演ラインナップを充実させる。

■ミッション「つねに考える」[3事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
9月	大スタ ジオ	「夜の女たち」 関連企画	(メインシーズン) 「夜の女たち」の上演に合わせ並行して実施する関連企画。戦後日本を彩る日本映画の上映や、戦後の時代背景等についてのシンポジウムを開催し、忘れてしまった、しかし忘れてはいけない時代を考える。
12月	複数施設	YPAM - 横浜国際舞台 芸術ミーティング 2022	(メインシーズン) 横浜市内の各文化施設を利用し、舞台芸術の実験精神と都市のクリエイティビティを融合させる。また、質の高いコンテンポラリー・パフォーミング・アーツの情報交換やプレゼンテーション等を行い、横浜に根付いた舞台芸術の国際的交流と創造的深化を目指す。
通年	複数施設	「カイハツ・プロジェクト」	必ずしも上演を目的とせず様々な創作の可能性を探る場を、演出家・振付家・俳優・ダンサーたちに提供する。数多くのアーティストが出入りし、劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指す。 また、国内外の戯曲の発掘、情報収集も継続的に行い、今後の企画立案に繋げていく作品のディベロップメント事業としても位置づける。 一環として、フランスのジャック・ルコック国際演劇学校によるワークショップも計画している。

■ミッション「未来につなぐ」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
10月	中スタジオ	シリーズ『「語り」の芸を未来につなぐ』(仮) 第一弾 「女流義太夫 竹本駒之助公演」	(メインシーズン) 受け継がれてきた芸を絶やさぬために、また新たな「語り芸」が生まれる機会を創るために、聴く力そして想像する力を喚起する「語り芸」の魅力をも未来につなぐプロジェクトの嚆矢として、竹本駒之助師匠の公演をおこなう。
令和5年 1月21日(土) ～29日(日)	ホール	「星の王子さま-サン=テグジュペリからの手紙」 森山開次演出・振付	(メインシーズン) 森山開次の演出・振付・出演により、令和2(2020)年度に創作し好評を博した作品を再演する。豪華ダンサー陣と美術・衣装・音楽の競演により、「星の王子さま」の物語にサン=テグジュペリの人生を重ねながら、ダンスで綴り、好評を博した。コンテンポラリーダンスとしては異例の大空間に挑戦した意欲作である。過去の作品を劇場の財産として、より多くの県民に鑑賞機会を提供出来るよう再演していく取り組みの第二弾。
KAAT 人材育成事業			
年2回 (前期・後期)		インターンシップ ＜社会連携ポータル事業＞	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業制作・劇場運営、または舞台技術の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供する。劇場運営と技術の2コースで開催。
年2回予定	調整中	舞台技術講座 ＜社会連携ポータル事業＞	プロフェッショナルとして活動している舞台技術者が、専門分野を超えて視野を広げ、スキルアップするために継続して開催している講座。
稽古、上演&トークを開催。2週間程度を予定	調整中	視覚言語がつくる演劇のことば ＜社会連携ポータル事業＞	演劇に手話や字幕などのアクセシビリティを後からつけるのではなく、あらかじめクリエイティブな要素の一部として組み込みながら、実験的で質の高い演劇をつくることを目指す事業。過去2年間の総集編として開催予定。

<p>通年</p>		<p>KAAT 教育普及事業 教育機関連携</p> <p><社会連携ポータル事業></p>	<p>大学及び県立高校の専門科との連携事業を重点に行う。 大学連携では、横浜国立大学、もしくは他大学との連携し、芸術文化に関心のある大学生を対象に講座を開催する。高校との連携は、県立総合高校舞台芸術科の教育課程に合わせた講座を開催する。</p>
<p>通年</p>	<p>複数施設</p>	<p>「カイハツ・プロジェクト」</p>	<p>(再掲)</p>

II. 施設運営・利用者サービス

「安全・快適な利用環境を守るーその先の安心へ」を施設運営・利用者サービスにおける重要な課題とし、「あらゆる人々に開かれた場」であるという視点でハード面・ソフト面を改善していくことによって来館者も利用者も安心して過ごすことができる施設をつくる。

3館は共通して、各館の運営に関する専門的知識の共有や、「社会連携ポータル」機能との連携により、高いレベルを標準化していく。

新型コロナウイルス感染症拡大防止については、引き続きガイドラインに沿って対策を進めていく。

また、管理運営にあたっては、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代に対応する新たな管理運営に取り組み、県の公立文化施設として相応しい良好な空調運転管理、保守管理の実施、そして清潔で快適な環境を常に提供することで、県民が安心して訪れることのできる施設環境を創出する。利用者サービスの向上に持続的に取り組み、高いホール利用率を回復させる。

<施設維持管理における共通目標>

3館では、4つのミッションに基づき、施設維持管理においても、以下に取り組む。

創造に挑む

県民の多くの方々が、芸術文化に触れ、また、芸術活動を行うことができるよう、鑑賞・創造環境の整備やその活動を支援する。

感動を分かち合う

自宅でも職場・学校でもない場所であり、つねに身近にある「あらゆる人々に開かれた場所」としての文化施設の機能を創る。

つねに考える

アンケートや利用者の方々からのご意見、内部及び外部での評価・検証を、会議等で議論、共有を重ね、文化施設の果たす役割、効果などをつねに考察し、次のアクションへ生かす。

県立の文化施設としてインクルーシブ社会の実現や SDGs 等の社会課題の認識や課題の解決にも取り組む。

未来につなぐ

地域の拠点の文化施設として、「社会連携ポータル」機能と連携し、インターンシップ受入れ、県内文化施設職員向け研修会の実施などにより社会と芸術文化をつなぐ担い手を育成する。

適切な施設保全、高い利用率の保持、多様なラインアップの提供によって、世代を越えて、県民の方々に長く愛される施設づくりに取り組む。

1. 神奈川県民ホール

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 図1

- ・首都圏有数の客席数を持つ大型文化施設として、どのような催しにも対応できるよう、また、年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる人々が芸術文化に親しみ、様々な芸術文化活動に携わり、魅力的で快適な場となるよう、安定したサービスと技術的サポートを提供する。
- ・大ホールではポップス、演歌、乳幼児向け公演、小ホール・ギャラリーでは県民の文化活動の発表の場として各種コンクール、ピアノ・合唱発表会、絵画・写真展覧会などジャンルを限定せず幅広く利用に供する。また、吹奏楽コンクール、神奈川県美術展をはじめとした美術展など、幅広い年齢層の県民の文化活動発表の場として提供する。
- ・大ホールの規模の大きさと舞台機構を国内外の利用者・関係芸術団体に周知し、県民の鑑賞ニーズの高い公演、海外の一流オペラやバレエ公演、全国規模の学術会議等の誘致に努め、特例利用制度等を活用して利用促進を図る。
- ・自主事業と貸館事業の適切なバランスを図り、新型コロナウイルス感染症拡大前の稼働率に戻し、利用料収入の確保を目指す。
- ・神奈川県内文化施設の「施設利用担当者」を対象とする、専門性の高い人材育成講座を実施し、県内文化施設全体のレベルアップ、県民利用のサービス向上に寄与する。
- ・周辺施設の需要の変化に対応しながら、日々、多くの県民が集う活気あるホール環境を維持する。
- ・窓口案内、会場案内、舞台技術、警備、中央監視、清掃等の各委託会社及びレストラン・喫茶と協力し、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。
- ・県と連携をとりながら、老朽化した施設の適切な維持管理を行うとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザイン化など、県民サービスの観点から時代に即した施設整備を行っていく。
- ・大規模修繕等の長期計画、あるいは建て替えなど、今後の県民ホールの在り方について、県とともに積極的に考察していく。
- ・抽選会後の空き日は地元イベーターなど等に対し、積極的に営業活動を行い利用の促進を図る。
- ・法令を遵守し、すべての利用者に公平公正かつ安全第一かつ安心感を提供できる運営を行う。

イ 神奈川県民ホールの施設を活用する事業 図2

公益目的（音楽・舞踊公演、展覧会など）が見込まれない場合は、学術会議、講演会、研修会、式典などの利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

ウ 駐車場の運営等 図1

- ・駐車場の運営を的確に実施し、収入確保をめざす。

2. KAAT 神奈川芸術劇場

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

- ・開館から10年がたち、ミュージカルのロングラン公演の会場として、多彩な演劇公演の上演される劇場として横浜に定着してきた。認知度の向上とともに比較的長期の利用が安定的にはいるようになっており、引き続き専門劇場として運営・技術サービスを安定的に提供していく。
- ・会場案内、舞台技術、警備等の各委託会社による施設を熟知したサービスをベースに、館全体で、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。
- ・電子部品等の更新時期を迎えていることから、県と連携をとりながら適切な更新工事等を実施していく。
- ・外国人・障がい者等の来館者対応として、鑑賞サポートの充実、ホームページの改善、職員研修などを順次計画的にハードとソフトの両面から進めていく。
- ・ホール特定貸館として、以下の公演を実施する。

開催予定日	会場	公演名	内容
5月21日(土) ～8月7日(日)	ホール	劇団四季ミュージカル 「ノートルダムの鐘」 (全74回公演予定)	2017年「オペラ座の怪人」、18年「ノートルダムの鐘」、19年「パリのアメリカ人」、20年「マンマ・ミーア！」と4年にわたり実施してきたロングラン貸館公演。2021年度は一年空けることになったが、22年度はKAATでも好評であった「ノートルダムの鐘」を再び上演する。 主催：神奈川県、横浜市、(公財)神奈川芸術文化財団、四季株式会社

イ KAAT 神奈川芸術劇場の施設を活用する事業 収2

- ・公益目的の利用（演劇・舞踊公演など）が見込まれない場合は、学術会議あるいは講演会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当するが、現状では稼働率も高く、ほとんど利用実績はない。

ウ 駐車場の運営等 収1

- ・駐車場の運営を的確に実施し、収入確保をめざす。

3. 神奈川県立音楽堂

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

- ・令和3（2021）年8月に、音楽堂は、併設する県立図書館と共に神奈川県指定重要文化財（建造物）に指定され、日本を代表する音楽専門ホールとしての存在価値を世の中にPRすることが出来た。定期的で開催している前川建築見学ツアーが、建物の価値が向上したことにより人気度を上げていること等から、建築としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安全安心な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。
- ・利用対応については、利用者が安心感を持って利用できるよう親切でいねいな対応、コロナ禍の舞台芸術上演においても安全、安心に利用いただけるように周知を行い、利用者・来館者の満足度向上を図る。
- ・まもなく開館70年目を迎え、老朽化が顕著な建物および設備維持管理については、定期点検・保守を継続して行い、事故や危険の未然防止を徹底させ、経年劣化に対する県有財産の価値保全のための適切な管理に取り組む。引き続き各設備機器の長期修繕計画のもと、建物の長寿命化に取り組む。
- ・建築見学ツアーについては、引き続きボランティアグループ bridge と連携し定期的を実施する。本年度は障がい者を対象とした見学ツアーや近隣施設と連携した見学ツアーへの展開を図る。
- ・令和4（2022）年秋に、県立図書館の新棟が竣工予定。現本館及び現新館は順次整備予定。これまでの取組の流れで、引き続き適切な対応・連携に取り組む。
- ・紅葉ヶ丘地区の活性化のため、県立図書館、青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーとの5館連携事業「まいらん」を引き続き促進させる。

イ 神奈川県立音楽堂の施設を活用する事業 取2

- ・公益目的（音楽公演等）が見込まれない場合は、講演会や研修会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

Ⅲ. 本部事業、その他事業

1. 社会連携ポータル部門 公1

ア 社会連携ポータル事業（3館共通事業）

①専門人材育成プログラム、②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）の4つの柱を中心に、3館の特性を生かしながら、社会と芸術をつなぐ窓口としての機能していく事業を展開していく。

■ミッション「感動を分かち合う」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
通年	県民ホール 芸術劇場 音楽堂	鑑賞サポート	障がいやさまざまな要因により文化芸術の鑑賞・参加に障壁がある方々が舞台芸術や美術を楽しむためのサポートを行うインクルーシブアプローチ。聴覚障がいの方に向けた文字による情報保障、視覚障がいの方に向けた音声や点字等による情報保障などの鑑賞サポートや、児童、生徒に向けたさまざまな形での鑑賞サポートも実施していく。3館において4～5公演を対象とする。
通年	県内施設	巡回鑑賞サポート	県域においても、障がい等にかかわらず舞台芸術を楽しむ機会を提供するため、主催公演の県内巡回公演に鑑賞サポートを付帯する。鑑賞サポートのサービスを実施するだけでなく、各文化施設が以降は独自で取り組むことができる体制を整えていくことも目的とし、巡回先の文化施設へノウハウの提供も同時に行っていく。
通年	アトリウム 他	フレンドシッププログラム	(芸術劇場事業より再掲)

■ミッション「つねに考える」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
年間2回	調整中	芸術と社会をつなぐ機能についての調査・研究	芸術と社会をつなぐ窓口としての社会連携ポータル事業が継続性をもってその役割を果たすために、今、そしてこれからの事業の在り方について研究、考察するための調査・研究事業。有識者による講座、またはシンポジウムを年間2回実施。
①7月16日(土) ②8月27日(土)	県民ホール	舞台芸術講座 ①開館50周年記念シリーズ Vol. 1 関連講座 ②青島広志の名曲レクチャーコンサート	(県民ホール事業より再掲)

■ミッション「未来につなぐ」

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
年間1回 (1～3か月)	県民ホール 音楽堂	インターンシップ	県民ホール(本館)・音楽堂において、就業体験の場を提供し、これからの舞台芸術を担う人材を育成する。公立文化施設であることを生かし、事業制作の過程だけではなく、施設貸出に伴う利用者対応などもプログラムとして組み入れ、公立の文化施設における業務を多面的に体験するインターンシップの内容とする。(注：芸術劇場は、館の事業計画に記載)
調整中	未定	県民ホール人材育成事業	(県民ホール事業より再掲)
通年	調整中	音楽堂アウトリーチ	(音楽堂事業より再掲)

KAAT 人材育成事業			
年 2 回 (前期・後期)		インターンシップ	(芸術劇場事業より再掲)
年 2 回予定	調整中	舞台技術講座	(芸術劇場事業より再掲)
稽古、上演&トークを開催。2週間程度を予定。	調整中	視覚言語がつくる演劇のことば	(芸術劇場事業より再掲)
通年		KAAT 教育普及事業 教育機関連携	(芸術劇場事業より再掲)

イ 共生共創事業（県からの受託事業）

(県の事業者募集に応募すると想定して、今後調整を進めていく。)

事業名（予定）	内容
共生共創事業	<p>県の重点施策である「共生社会の実現」「未病」などの取組とマグネット・カルチャー（マグカル）をクロスさせた舞台芸術関連の事業。</p> <p>県域の文化振興に関するネットワークの形成についても、本事業に関連して進めていく。（5年目。平成 30（2018）年度から開始の事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア劇団 3 箇所 通年実施（横須賀、綾瀬、小田原） ・シニアダンスワークショップ 1 箇所 通年実施（横浜を主体に県内各地） ・インクルーシブ事業（3 件程度） ・その他広報業務等 <p>※神奈川県の実業説明文 事業理念</p> <p>神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。</p>

2. 県域芸術文化財団への業務協力 公1

公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団は令和4（2022）年度から鎌倉市より鎌倉芸術館の指定管理者の指定を受けることになり、については当該財団より当財団に対して業務協力の依頼があった。

県域で活動する財団との業務協力は、県域における芸術文化の振興の一助となることから、鎌倉芸術館の運営に関する業務協力を行っていく。

- ・相手先：公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団
- ・内 容：鎌倉芸術館の管理運営協力
- ・方 法：管理運営における人員出向等の協力及び主催公演における企画制作作品の提供等
- ・期 間：令和4（2022）年4月1日から5年を1期として最大2期までを予定

3. 芸術文化に関する情報の収集提供 公1

- ・令和3（2021）年度より当財団の主催事業のみならず、広く県内外で実施された芸術文化や文化施設の取組等を紹介し、県民に芸術文化への理解をより深めて親しみを感じてもらいたい情報誌にリニューアルした「神奈川芸術プレス」を年2回（9月、3月（予定））発行する。
- ・公演・催物に関わることでなく、文化と社会の架け橋になるような特集テーマを設定し、人材育成・インクルーシブ関連の取組など様々な観点から、紙の冊子ならではの読み応えのある記事を掲載していく。また、ウェブ版も作成し、読者の拡大に努める。

4. かながわメンバーズの運営 公1

- ・会費無料のインターネット会員制度「かながわメンバーズ（愛称 KAmE：カメ）」を運営し、メールマガジンの発行による公演案内やチケット発売情報の提供、先行予約の実施などのサービスを行う。



「かながわメンバーズ」

- ・現状のサービスを維持した上で、チケットレス機能など新機能を検証し積極的に導入する等、利用者の一層の利便性向上に努める。また、会員情報をより適切に管理し、安全性を確保し、効率的な運営を行う。

5. チケットかながわの運営及び団体販売等の促進 公1

- ・主催事業の票券管理補助やチケット販売、また共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。近年大半のチケット購入者が利用するインターネット予約システムが安定稼働するよう整備維持するほか、特に高齢者へのチケット販売時は電話・窓口で丁寧に対人対応をおこなうなど、利用者の立場に寄り添ったサービスを提供し、利用者満足度を向上させる。
- ・また、電子チケットなどの技術面における環境の変化などにも対応し、利用者満足度の高いチケッ

トセンターを運営していく。

- ・チケットの団体販売については、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。

6. 資金調達活動 図1

ア 文化庁等からの補助金・助成金の確保

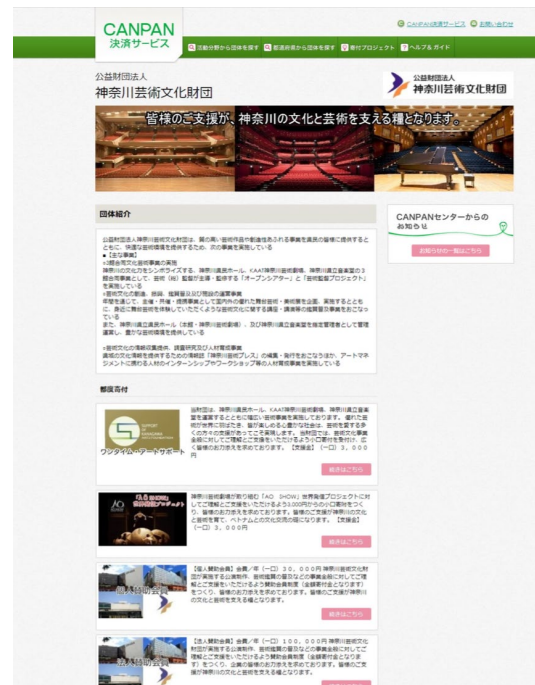
文化事業、広報活動及び人材育成等の充実、他劇場等との連携の拡大に取り組むため、文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」等の補助金、一般財団法人地域創造、芸術文化振興基金及び民間の助成財団等からの助成金の確保に積極的に努める。また、独立行政法人日本芸術文化振興会の調査・ヒアリングに対応するなど、文化芸術分野への助成金の拡充施策に協力していく。

イ 賛助会員制度（寄付金）の運営

- ・コロナ禍により特に法人賛助会員の獲得は厳しい状況にはあるが、現会員に継続いただくとともに、新規の会員獲得のため、法人、個人への働きかけについても積極的に行う。
- ・来館者、一般の方々の賛助会員制度への認知・理解を深めるため、主催公演における募集チラシの折り込みやWebサイトの充実等の方策を実施する。
- ・オンラインでの簡易な入会・更新手続きを促進することで小口寄付を強化し、寄付者数の拡大を図る。また、特典の内容を見直し、より魅力的な寄付制度にしていける。

ウ その他企業協賛金の獲得

賛助会員制度だけでなく、特定の公演や事業に対して支援をいただく個別協賛金や、法人としての定期的なチケット購入、リニューアルした神奈川芸術プレスへの広告出稿、公演に合わせた現物提供など、幅広い支援をいただけるよう、法人、個人に働きかける。



インターネットを活用した寄付金募集

7. 管理組合の運營業務受託 図2

- ・KAAT 神奈川芸術劇場及び日本放送協会横浜放送会館合同施設全体の防災管理業務、並びに共用部の敷地・建物の清掃、保全、保守、修繕、植栽、塵芥処理及び消毒業務等の施設維持管理業務を受託する。
- ・合同施設アトリウム・レストラン・カフェの利用調整業務を行う。

8. 法人本部の運営

ア 法人本部の運営 法人

理事会・評議員会等の運営、職員の資質向上のための研修の実施、事業評価の実施、その他公益法人の運営に関すること（総務、人事、会計、県との調整等）を行う。

2年目となる第4期指定管理業務を、引き続き効果的、効率的に進めていく。

イ 寄付講座の実施 公1

財団本部の事業として、昭和音楽大学大学院の授業「音楽マネジメント特殊講義VI」に出講（寄付講座として受託）し、当財団職員が劇場運営や事業等について分担して講義を行う。（計 15 コマ予定）